

## 地学と切手



## モーリタニアの鉱業切手

## P. Q.

モーリタニアは正式の国名を「モーリタニア回教共和国」といい アフリカ大陸の西端にあって 北はアルジェリアとスペイン領サハラ 南はセネガルに接する面積103万平方キロ（日本の3倍）人口110万人の国である。1960年11月フランスから完全独立を達成した砂漠の国であるが 鉄・銅などの豊富な鉱物資源に恵まれ 近年はこれらの資源開発も進んで 遊牧の国から近代工業国家に飛躍しようとしている。

モーリタニアの鉱業は鉄・銅が主なもので この外に岩塩・石こうなど若干の産出がある。石油の探鉱は行われているがまだ成功はしていない。国の貿易は鉱産資源によりまかなわれ 鉄鉱石が輸出総額の80パーセントを占め 1972年からは銅精鉱も輸出されている。

**鉄 鉱 石** フデリックの鉄鉱床はすでに11世紀には稼行されたといわれる。1935年から注目され 戦後から本格的に稼行された。鉱床はスベリオル型であり先カンブリア系の珪岩および赤鉄鉱珪岩からなっている。鉄石は塊状緻密で硬く Fe 65—68% 珪岩は Fe 40—47% を含む。一例として Tazadit 鉱床は平均厚さ150m

傾斜 50~60° 延長 1200m 以上であるが 深さはまだ調査されていない。全埋蔵量は予想分を含めて2億4千万トン以上である。

この鉱床開発のため1952年にモーリタニア鉄鉱会社 (Société des Mines de Fer de Mauritanie 略称 MIFERMA) が設立された。同社はフランス イギリス イタリア ドイツの各民間会社が資本を出資し モーリタニア政府も5パーセントの資本参加を行っている。鉄石は産地から大西洋沿岸の鉄石積出港ヌアディブまでを MIFERMA 専用の鉄道で輸送しているが 距離は 650 km 機関車は Alsthom CC 型で

1列車に2500馬力機関3基 貨車135輛 積載鉄石量1万トンである。列車速度は40~50 km/時で所要時間は16時間で達する。鉄鉱石の輸出量は1965年には600万トンで イギリス 西ドイツ イタリア フランスが主な国であり 1970年には900万トンを輸出し 日本もこのうち66万トンを輸入した。

**銅 鉄 石** 主都ヌアクショット北東280キロのアクジュジュトで産出し 1931年に発見されたが開発に着手されたのは近年である。鉱床は先カンブリア系の片岩および珪岩中に挟在する石灰岩レンズで 副産物に磁鉄鉱 赤鉄鉱を伴っている。1967年にフランス アメリカ モーリタニアの資本で モーリタニア銅会社 (Société Minière de Mauritanie 略称 SOMIMA) が設立され 1971年4月から銅精鉱の生産が開始された。この精鉱は全部輸出され 1971年末の輸出量は3万4千トンと見積られている。

**石 こう** ヌアクショット北東60キロに約340万トンの石こうが埋蔵されている。

切手は 1962年と1971年に発行された MIFERMA の鉄石専用列車と 1975年の SOMIMA の記念切手で大規模の露天掘と選鉱風景 近代輸送が砂漠と対比されて画かれている。